

子どもたちが進んで訪れたいくなる図書室



栃木市立千塚小学校 由井紗友里
外戸 幸枝

1 はじめに

読書をする事で多くの知識を得たり、豊かな情操を育てたりすることができます。本校では図書室を活用して読書活動を進めてきました。しかし、学校評価の「進んで読書をしている」という項目の評価は児童・保護者共に低く、昼休みの図書室にもあまり児童の姿が見られませんでした。

そこで図書館事務員と連携し、多くの児童に読書に親んでもらうために「子どもたちが進んで訪れたいくなる図書室」経営を進めていくことにしました。

2 努力目標

- 図書室に興味をもち、来場者数を増やす。
- 保護者に読書の大切さを知らせるとともに、家庭での読書への取り組みを啓発する。
- 年間貸出冊数 2 万冊を全校で目指す。

3 実践内容

(1) 読書ポイントカード

子どもたちが本を借りる楽しさを感じながら一人一人の読書の量を増やすために「ポイントカード」を作成しました。ポイントカードは曜日毎にスタンプがもらえるしくみになっていて、月曜から金曜まですべて来室するとカードが1枚終了します。子どもたちはポイントがたまる嬉しさを感じながら毎日図書室に来て本を借りるようになりました。

そして、「おすすめの本ポイントカード」や、「コーナー別ポイントカード」等、いろいろな種類を増やしていきました。

また、ポイントカード1枚につき1回できる「ガラポン抽選会」を実施しました。出た玉の色により、しおりや豆ノート、1ポイント券や図書室の本2冊貸出券など様々な景品を用意したことで来場者数だけでなく、貸出冊数も急激に増やすことができました。



【様々なポイントカード】

なにが
できるかな？



【ガラポン抽選会の様子】



景品も
たくさん
あるよ!



【ガラポン抽選会の景品】

(2) 図書室内の掲示の工夫

読書経験が少ない子にとっては、どのような本を読めばいいかが分からず、結局いつも同じような本ばかりで読書の幅が広がらない様子がありました。そこで、図書館事務員を中心に「新しい本コーナー」「学年ごとのおすすめの本コーナー」「教科書に出てくる本コーナー」などの分かりやすい表示を作り、本を見つけやすくしました。その結果、子どもたちは様々な本と出会うことができ、一人一人の読書量を増やすのはもちろんのこと、読書の幅を広げることにもつながりました。



【おすすめの本のコーナーの掲示】

また、来場者数を増やすために図書委員が毎日カウンターを使って計測した来場者数を掲示しました。その結果をもとにして、様々なイベントを企画しました。



【来場者数の掲示】

ちなみに2学期は、「みんなで飾ろうクリスマスツリーイベント」を行いました。子どもたちが図書室に来るのが楽しくなるように大きなツリーを掲示し、本を借りに来た子どもたちが思い思いの飾りを作りました。とても楽しく取り組む姿が見られ、来場者数増加につながりました。



すてきな
ツリーが
できました!



【ツリー作りの様子】

(3) 多読賞の表彰

50冊、100冊、150冊…を達成すると多読賞がもらえます。細かな目標設定をしたことで、子どもたちは自分の貸し出し冊数を気にするようになりました。また、学期毎に全校生の前で表彰を行い、読書に対して自信を深める児童が多くなりました。



【多読賞の表彰】

(4) 図書委員の活躍

これまで図書委員の役割は本の貸し出し・返却が中心でした。来場者が少ないと仕事がほとんどない状態で、委員会活動への意欲が低下してしまいます。そこで、子どもたちにも「貸出冊数2万冊を目指す」という目標を掲げ、一緒に目標に向かって取り組んでいこうと声をかけました。このように目標を意識したことで、委員会活動が活発化してきました。貸出冊数があまり伸びない原因を話し合ったり、どうしたらみんなが楽しく本を読んでもくれるようになるかについて意見を出し合ったりした結果、下学年への本の読み聞かせや、ガラポン抽選会などのイベントの運営など、子どもたちが主体となることができるが増えていきました。



【図書委員の話し合いの様子】

(5) 読書週間の工夫

読書週間では、様々な取り組みをしてきました。朝の読書の時間には、代表児童が全校放送で感想文を読み上げました。また、たくさんのお勧めの本に親んでもらうために、全校生が自分のお勧めの本を紹介するポップ作りをして校内に掲示しました。さらに、先生方による読み聞かせや、縦割り班に分かれ高学年児童が低学年に読み聞かせを行うペア読書などを行ってきました。そして、全校図書集会では、図書委員が中心となって読書クイズを行ったり、今年は自分の好きな本のアピールをするビブリオバトルを行ったりしました。



【全校ポップ作りの掲示】



お兄さん
お姉さんに
読んでもらって
うれしいな

【縦割りグループのペア読書】

私のお勧めの本を
紹介します！みなさん
ぜひ読んでください！



【ビブリオバトル】

(6) 家読

家読を進めるために、図書だよりを使って、各家庭に家読の意義や効果を積極的にアピールしました。保護者の方の感想を書いてもらう「うちどくのきろく」を配付したところ、ほぼ全家庭が家読に取り組むようになりました。そして保護者から、「子どもと本について共感できたのでとても楽しい時間を過ごせた」「親子で一つの物語について感じたことを話し合うと、『そんな風を感じるのだな』と気づき認め合うきっかけづくりにもなった」という感想が寄せられました。また、学校公開日には保護者向けの本の貸し出しを行い、子どもと一緒に本に親しむ機会を設けました。

家族で本を楽しもう♪ 期間 6/15(金)～6/21(木)

うちどく(家読)のきろく

年 組 名 前

本の題名

1. だれの本 (色をぬってね) うちの本 (色をぬってね) ともだちの本 (色をぬってね) 学校の本 (色をぬってね)

2. どんな方法でしましたか (色をぬってね)

3. その後どうしましたか (色をぬってね)

おなじ本を一緒によんだ 本について

おなじ本を別々によんだ ほかに本もよんだ じぶんの感想

【うちどくのきろく】

(7) 昼休みのイベント

図書委員が企画、運営するイベントを昼休みに行いました。ガラポン抽選会や掲示物作成をはじめ、人形劇や工作教室など、子どもたちが楽しみながら図書室に来る機会を意図的に作りました。はじめは、教師の声掛けから始まった企画でしたが、今では図書委員が進んで「やりたい」というような活発なイベントになってきました。



【人形劇の様子】



【図書室にある本を活用した工作・切り絵教室】

(8) 図書だよりの工夫

毎月発行される図書だよりでは、新着図書の紹介をしています。また、委員会での活動内容や、イベントの案内、多読賞の紹介などを掲載し、保護者の方にも図書室での取り組みに関心を持ってもらえるように工夫しています。

千寿小学校 平成31年1月 第9号

図書だより

多読者上位10名(12/21現在)

1位	神山 隆輝さん	352冊
2位	喜久 拓己さん	352冊
3位	望月 鈴愛さん	320冊
4位	寺内 志希さん	298冊
5位	日井潤一様さん	291冊

4月に図書委員さんが立てた目標は「12月までに多読者上位10名に入りたいです！」

「あたらしい本が入ります」

1年生 おしりたてい アアッ
2年生 しずくちゃん28巻
3年生 ほねほねザウルス18巻
4年生 12歳、3巻
5年生 ジュニア空想科学読本1

(9) 外部人材による読み聞かせ

本校では、毎月地域のボランティアである「くすくすの会」が、朝の学習の時間に読み聞かせを行っています。子どもたちは本が大好き。読み聞かせをしてもらっているときの子どもたちの目はいつもキラキラしています。

また、読書週間には、様々な外部の方に読み聞かせをしていただいています。今年は読み聞かせボランティア「りんごの会」の方に来ていただきました。何種類もの本を声色を変えて読んだり、楽器を使ったり等の工夫であったという間に時間が過ぎました。



【くすくすの会】



【りんごの会】



(10) 栃木図書館との連携

本校では、毎年2年生が校外学習として栃木図書館に訪れ、たくさんの本に驚き、本と出会う経験をしてきます。そこで、今年から栃木図書館と連携し、2か月に一度20冊程度本を貸出しする取り組みを始めました。学校の図書室にはない、さまざまな本と出会えることに加え、季節ごとやテーマごとに本を持ってきてくださるおかげで、楽しんで本を借りることができました。



【栃木図書館から借りてきた本を並べたコーナー】

(11) 給食とお話のコラボレーション

学校栄養士と連携し、お話の本に出てきた食材を給食に出していただきました。今回は「わかったさんのアップルパイ」というお話です。読み聞かせを聞いた後、子どもたちはアップルパイを食べながら「お話の中に出てくるアップルパイだ!」と歓声をあげていました。その後、「わかったさんシリーズ」が大人気となりました。



【わかったさんのアップルパイの本】

(12) 暖らんコーナー

寒い季節になり、外で元気に遊ぶ子がいる一方で、教室で遊ぶ子も増えてきました。そこで、図書室前の談話コーナーに「暖らんコーナー」という場所を設け、温かいひざかけや座布団を用意して温まりながらゆっくり本を読めるようにしました。休み時間になると一人で本を読む子もいれば、友達と一緒にゆっくり本を読む子もおり、学年問わずいろいろな子ども達が活用しています。ちなみに、「暖らんコーナー」という名前は、図書委員のアイデアから生まれました。



【暖らんコーナー】



暖かくて落ち着くな～！



【大人気の暖らんコーナー】

4 終わりに

「子どもたちが進んで訪れたいくなる図書室」運営に力を入れてきた結果、図書室の来場者数は着実に増え、貸出冊数は9,505冊から翌年15,005冊、翌々年19,208冊、そして今年は10月時点で13,033冊と、前年同時期を2,000冊ほど上回り目標の2万冊に向けて大幅に増やすことができました。また、本を毎日借りることを楽しみにしたり、休み時間に何気なく図書室を訪れて本を探したり、読書をしたりする姿も多くみられるようになりました。

2万冊達成が最終的な目標ではありません。読書を通していろいろなことを知ったり、様々な考えに触れたりすることで豊かな人間性を育てていきたいと思えます。



読書って楽しいな！



【みんなで仲良く読書】

【下学年への読み聞かせ】